

方向性について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

皆さんおはようございます。

この度協会理事会の審議を経て師範に任命された方がいらっしゃいます。

今日は師範とはどういう人のことなのか、そしてそれを目指す方がどこを目指してテコンドーの修練を行えばよいのかのお話をさせていただきたいと思います。

師範とはどのような人かと言いますと『相手を強くする人』のことです。

では強いとはどういうことかと言いますと『あるべき姿でいること』です。

あるべき姿とは例えば選手で言えば勝つことが強いと言えます。では人間としてはどうでしょうか。自分のことばかり考えている人が強いと言えるでしょうか。そうではなく相手のことを考えれる方は強いと思います。

道場においては、この人がいるからやる気になれる、この人がいるからしっかりしよう、挨拶をしよう、その”この人”に当たる人が師範という存在です。

では仮に組手が強く、型も上手い方がいらっしゃったとして、道場で威張ったり、遊んだりしていたらどうでしょう。周りの人がやる気になるでしょうか。そうはならないと思います。

しかし人間とは力を持つとあるべき姿から離れだすことが往々にしてあります。力を持っているからこそ自分のやりたいようにやってしまう。結果として相手は蔑ろになります。

師範になる上で組手が強い必要も型が上手い必要もありません。必要な時もあるでしょう。しかし最も必要なことは人間としてどうであるのかということです。その方向性を示したいと思います。

皆さんは日々の練習で何をしているのでしょうか？強い打撃を打つためにミット練習をしたり、組手の練習をしていると思います。つまり人を傷付ける練習をしています。毎日毎日人を傷付ける練習をしているのです。

では日常生活において人を傷付けてよいかというところではないです。

しかし毎日人を傷付ける練習をしています。

一見良からぬことをしているようにも見えるのですが、ここで一つの考え方を提案したいと思えます。

それは物事には対極があるということです。物事を理解しようと思うと片側一方だけ知っていても理解には至りません。その反対のことも知る必要があるという事です。

例えば道場では行いを整えることに重きをおいています。だから道着を正しく着る、礼を正しく行う、色々なことを整えた形で行います。

しかし”整う”だけを知っていてもその本当に価値には気付きません。真逆の”乱れ”を知る必要があります。乱れを知るからこそ、整う価値も分かります。

強さについても同じです。強くなりたいのであれば自分の弱さを知る必要があります。

この考え方を武道の修練に反映させると、”活かす”と”殺す”という言葉がありますが、人を傷付ける術を知っているからこそ、人を活かす術を知ることが出来るという事です。

理屈は分かるかもしれませんがまだよく分からないと思えますので具体的に例を挙げようと思えます。

皆さんは今日組手の試合をしますがどうやったら勝てるのでしょうか。

もちろん練習することは当然なのですが、簡単に言えば相手の弱点を探すことです。更に良いのは相手の弱点に自分の長所をあてることです。そうすることで効率よく戦うことが出来ます。

これを人間関係に置き換えるとどうなるかというところ、相手の悪いところが見えるということです。しかしながら相手の悪いところばかりを見ている方というのはどのような心のあり方でしょうか。良いものとは思えません。

人間関係においては逆になります。つまり相手の良いところが見えるか、気付けるかという事です。更に言うなれば自分の弱いところも相手にさらけ出せるかという事です。

もしあなたが相手の悪いところばかりが気になっているとしたら、今の心のあり方は良い状態ではないということに気付いてください。人間は気付くか気付かないかです。気付く

ことが大事なことです。

指導者においてはどうか練習生の良いところを見つけて、それを伸ばすことに全力を注いでほしいと思います。

指導者はどうしても自分が出来るということ、そして厳しい中でやってきたことなどの経験がありますので、どうしても練習生がそれと違うと気になってしまうものです。これは切っても切れないでしょう。しかし私の浅い経験ではありますが、相手の悪いところを悪いと指摘して直させようとしても多くは直らないでしょう。

そうではなく一つでも良いところを伸ばしてみてください。床に置いたハンカチに例えると一か所が上がってくるとそれにつられて他の部分も上がってきます。人間も同じことだと思います。自分として上げたい部分があれど、相手が上がれる部分でなければ上手く上がりません。

相手を傷付けることに対する技量は年齢と共に落ちていく部分もあるかと思います。しかし人を活かすことに関しての理解はどこまでいっても完成することのないことであり、それを追求することが武道を続けていく意義だと思います。

今日は師範とは何かという切り口から目指す方向を提示させていただきました。

武道とは人を活かすものであるという事は覚えておいてください。

ありがとうございました。

2022年7月24日

第19回愛知県テコンドー選手権大会にて